

長寿を楽しむ法

仙台敬老奉仕会

吉永 馨

長寿願望

1. 不老長寿の仙薬が蓬莱国にある。秦の始皇帝は徐福に命じて取りに行かせる。徐福は戻らず、皇帝は49歳でを世去る。徐福の墓、あるいは徐福の碑が日本各地に残っている。
2. 長生きしたい、長生きしたい。これは人間の長年の願望。
3. 近年、それが突然実現した。大喜びすべきだが、課題も多い。

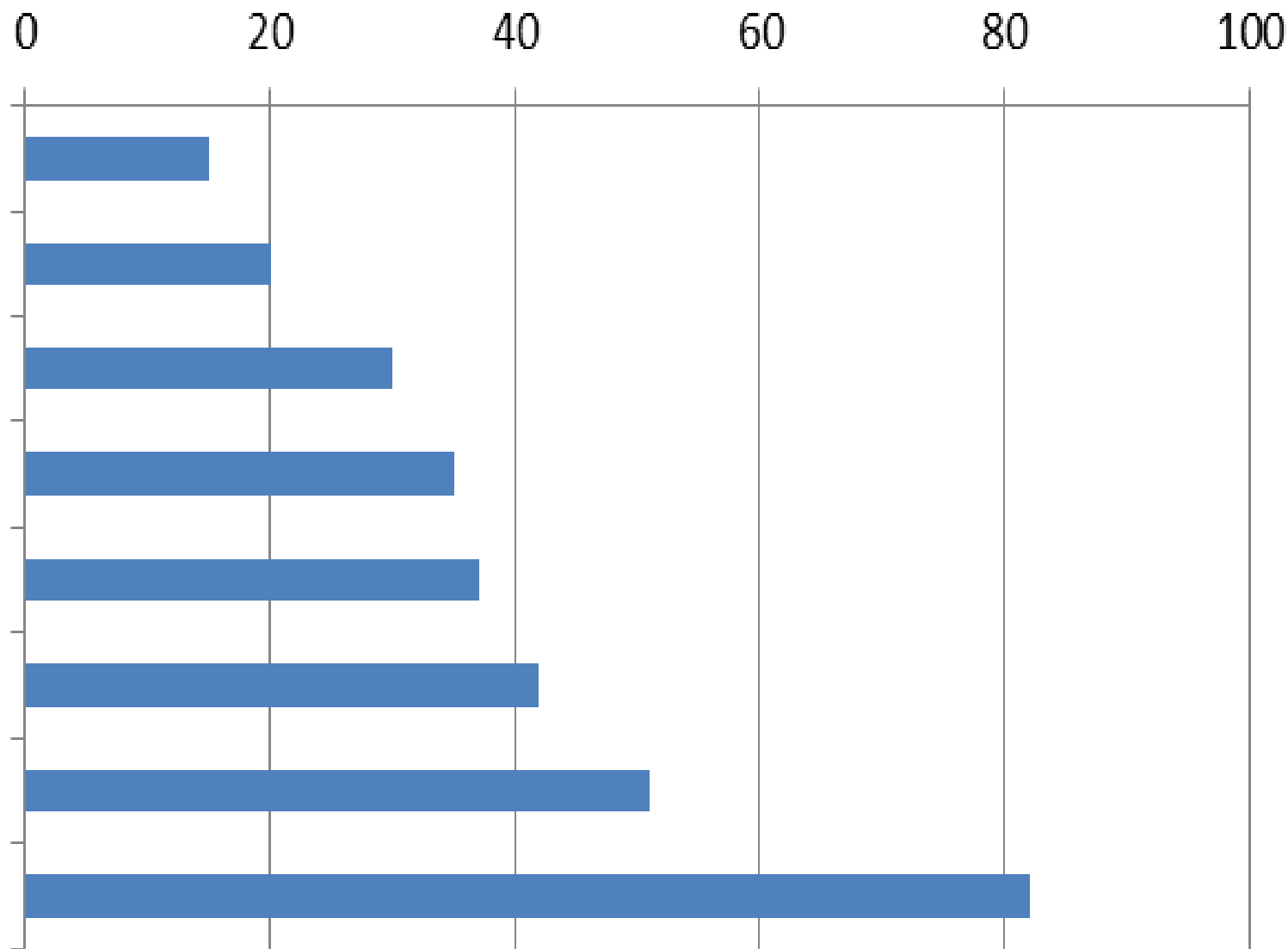
人生七十古来稀

唐代の詩人杜甫の作

朝回日日典春衣
每日江頭尽醉歸
酒債尋常行處有
人生七十古来稀

朝より歸りて日々春衣を典す
毎日江頭に酔を尽くして歸る
酒債は尋常行くところに有り
人生七十古来稀なり

平均寿命



長寿金メダル

1. 現在日本人の平均寿命
男子：81.5 女子：87.6
2. 長寿世界一だ！長寿金メダルだ！
日本を挙げて大祝賀会を開こう！
3. しかし、老人介護問題が浮上した。今まで経験したことがない事態だ、どう対応すべきか戸惑っているのが現状である

姥捨て山伝説

1. 檜山節考、深沢七郎の小説
昔、その村では、人が70まで生きると、「檜山参り」に行くことになっていた。家族が送って行って檜山の奥にある祠に置いてくるのである。
2. 役に立たなくなかった老人の口減らしのため。
3. 「姥捨て山伝説」は日本各地にあり、諸外国にもある。事実あったようである。
4. モンゴルの遊牧民は、移住に際して病弱老人を置いていくという。



介護保険制度

1. 2000年、老人が増え、入院者が増え、病床がパンクしたのをきっかけに、40歳以上を義務化した。特別養護老人ホーム（特養）と介護施設（特設）を呼んだ。40歳以上を義務化した。特別養護老人ホーム（特養）と介護施設（特設）を呼んだ。40歳以上を義務化した。特別養護老人ホーム（特養）と介護施設（特設）を呼んだ。
2. この保険料と、国や地域自治体の補助によって、入院料は自己負担（何割かはその人の収入による）
3. 現在、どの施設もほぼ満床で、入院希望者は空床が出るのを待たなければならない。

その他の介護施設

1. 富裕層のための有料ホーム
2. サポート付きマンション（サ高住）
3. 生活保護者のための養護ホーム
4. 認知症のためのグループホーム
5. その他沢山のバリエーションがある。

特養の現状

1. 人手不足：介護士の仕事、きつい、汚い、危険（3K）
2. 国の対策：外国人の導入、ロボットの活用、退職者の呼び戻し、市民のボランティア。
3. いずれも実現に努力しているが成果があまり上がっていない。
4. そのため、身体介護で精一杯で心の介護をする余裕がない。

特養入所者の心

1. 多くの入所者は寂しい。淋しい、見捨てられた、姥捨て山に捨てられたと感じる。
2. 絶望して心を開かず、呼んでも答えない。そのうち言葉も忘れてしまう。
3. 不満をぶちまけ、手に負えない人もいる。
4. 人はパンだけでは生きられない。動物なら生きられるが・・・。

介護士を責めてはならない

1. 介護士は使命を感じて薄給と3Kに耐えて働いている。感謝しなければならない。
2. 彼らから3Kを取り除き、給料を倍増すれば彼らは嬉々として天職に励むであろう。離職はゼロになろう。
3. それが実現しなくても、市民ボランティアが年寄りを支え、心のケアを担当して協力すれば負担がぐっと軽減するに違いない。

国の対策

1. 外国人の導入、ロボットの活用、離職者の呼び戻し、ボランティアの育成。
しかし実効が上がっていない。
2. 地域包括ケア：2005年（医療と介護の協力・調整）。
3. **地域共生社会** 2017年、我がこと、丸ごと。地域の人々が助け合う社会。
4. かけ声は高いが、現場の状況はあまり改善していない。
5. なぜか？ どうすれば良いのか？

地域共生社会

1. 欧米では地域共生社会が成立している。国はそれを日本にも導入しようとの方針を立て、モデル地区を100カ所指定し、予算をつけて実現しようとした。
2. 仙台市、石巻市、涌谷町が県内では指定されている。
3. しかし成果が上がっていない。仙台も、全国的にも。
4. それは外国の事情を知らないから。

アメリカ、カナダに学ぶ

1. アメリカロサンゼルススのKeirouホーム、リバーサイド（仙台の姉妹都市）の介護施設、オタワ市（カナダ）のブリュエール病院と交流し、見学に行ったり、仙台にお呼びしたりして先方の状況を学んだ。
2. どの施設にも沢山の寄り添いボランティアがいて、定期的に老人を訪問し、老人の心を支えている。
3. 職員は体のケア、ボランティアは心のケアを担当している。

欧米ではボランティアが・・・

1. 欧米では市民が積極的にボランティアをして介護を支えている。
2. アメリカやカナダでは、介護施設には必ず多くのボランティアが年寄りの心のケアを支え、職員は体のケアを行ない、心身両面のケアが整っている。
3. 在宅の老人も、給食サービスなど、ボランティアが奉仕している。施設に対する寄付も多い。
4. まさに地域共生体制ができている。
5. 日本は遅れている。急がねば25年問題を乗り切れない。

欧米の市民意識

1. 市民生活は市民が支えるという伝統。
王の苛政に反抗して市民生活を守った歴史。
市民革命が何度も起こった。
2. キリスト教の愛の教え。
3. 人権思想：人は尊厳を維持する権利を有する
4. 奉仕は楽しみ。無償の愛は無上の喜び。金
銭によらない大きな報酬。

カナダのボランティア制度

1. 若い人（15-19 歳）は最もボランティアが多い。
2. 高校生は40時間のボランティアが必修となっている。
3. 年配者（55 歳以上）もボランティアに励み、総時間の**39%**を彼らが担っている。
4. すべての長期ケア施設は、ボランティア受け入れプログラムを制定しなければならない。それがないと認可されない。設立後も監査が厳しい。





只で働く？

1. 「只で働く？ そんな馬鹿なことがあるか」という人がある。それに賛同する人も多い。
2. 一方には無料の奉仕を喜ぶ人もいる。寄り添いボランティアをする人がそうである。
3. ボランティアをすると、人の思いが分かるようになり、人生理解が進み、極めて有意義だった。人のためになろうと始めたが、実際は自分のためであることが分かった。

無償の奉仕

1. キリスト教の愛、仏教の慈悲、いずれも無償の奉仕である。ただで働く事である。
2. これは義務としてやるのか？いな！喜んでやる。奉仕の喜び、心身（魂）の充実。ひいては健康増進
3. 目先の欲、人はこれに目がくらみがち、欲が達成すればさらに欲が膨らむ。心の充足がない。
4. 寄り添いボランティアは身近な奉仕

市民のためにも必要

1. ボランティアは生き甲斐、やり甲斐を感じ、視野が広がり、人生が豊かになる。これは金銭を超えた報酬である。
2. そのため、欧米のボランティアは始めると辞めない。
3. この喜びの場を市民に開放しなければならない。現状は閉鎖されている。
4. これぞ本当の地域共生社会である。

マザーテレサの思い

1. インドのカルカッタで貧しい人のために奉仕した。特に路傍の行き倒れ、瀕死の人を収容して看取った。
2. 彼らはお礼を言う力もない。しかし目に感謝の思いを現わして世を去った。
3. テレサの思い：「この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され、『自分は誰からも必要とされていない』と感じる事なのです」

私たちの歩み 1

1. 2006年1月、敬老奉仕会を設立。まず市民や介護施設に対して啓発研修会を定期的に行い、外国のボランティア制度を導入しようとした。隔月に研修会をしたが、施設側の理解がなかなか進まなかった。
2. 3年目に1つの特養が受け入れ、以後少しずつ増えて12施設の及んだ。ボランティアも50人ほどになった。
3. 気仙沼の特養が単独に理解し、自力で始めた。
4. 富谷市の市長が理解し、市を挙げてスタートした。

私たちの歩み2

1. 角田市その他が理解し、スタートの準備に入ったが、コロナで頓挫していた。
2. 東京の二宮氏が当会の理念に同調し、育成研修会を組織し、既に一部ボランティアの実践に入っている。
3. 山形県や青森県でも準備中の人がいるが、コロナの鎮静化を待ってスタートしようとしている。
4. コロナが5月から感染症5類になり制限がなくなった。今後の爆発的発展が期待される。